

# 初のサイエンスキャラバン

# 身近な科学に興味を

## 多彩な実験、工作に夢中

子どもたちに工作や実験を通して科学を身近に感じてもらうと「沖繩サイエンスキャラバン(宮古島)」(主催・同構築事業)が12日、市中央公民館で開催された。児童生徒が体験を通して科学技術への理解を深め、離島や遠隔地での科学コミュニケーション構築を目的に初めて行われた。会場には大勢の親子が訪れ、プーメランやビー玉指輪、オリジナルジュース、地震実験装置づくりなどの工作を通して科学への関心を高めていた。

ペットボトルを使った液状化の実験に見入る子どもたち＝宮古島市中央公民館



同キャラバンは「沖繩サイエンスキャラバン構築事業(離島・遠隔地等科学コミュニケーション推進プロジェクト)」として県科学技術振興課に委託されて実施。今回はNPO法人たのしい教育研究所、琉球大学科学隊、県公衆衛生協会、沖縄科学技術大学院大学をはじめ地元から宮古島市工コアイランド推進課、県立宮古工業高校、元気生活、コーラル・ベジタブルが参加。それぞれブースを設けて実験や工作、料理講習会などを行った。

午前10時から始まり、会場となった同公民館大ホールなどには大勢の子どもたちが詰めかけた。パイオマースエネルギーを体験するためヒマワリの種から絞った油で動かす模型の車、ビー玉の万華鏡、手のりプーメランなど工作は特に人気があり行列ができていた。琉大科学隊の地震実験装置の工作では長さの違うリボンや針金を揺らし、高さの違う建物が地震のときどう揺れるかを説明。ペットボトルを使って液状化現象も教

えていた。たのしい教育研究所の「きらきらビー玉」は熱したビー玉を急速に冷やしてひび割れさせ、温度による膨張と収縮を実験した。

コーラル・ベジタブルは同社のアロエベラ原液を使ったオリジナルジュースづくりを行った。原液に乳酸菌飲料、果汁を子どもたちの好きな配合で混ぜ、健康には良いがやや飲みにくい原液をどうおいしくするか考えながら作っていた。

手のりプーメランや地震実験装置、水中シャボン玉などを作った仲宗根真那さん(南小3年)は「プーメランが一番楽しかった。水

中シャボン玉は作るのが難しかった。長くて地震の揺れ方が違うのが分かった」と感想を話した。

同キャラバン構築事業の仲間あずみさんは「子どもたちに地域の素材も見方を変えれば科学になることを知ってほしい。身近なものや、ふだん使っているものからも楽しさや不思議があることを発見してほしい」と話していた。